

# 甲南中学校入試 傾向と対策(算数)

◇2024年度 I 期午前 a 入試 出題分析

算数								
問題番号	単元	難易度	重要度	問題番号	単元	難易度	重要度	
第1問	(1)	四則計算	AA	◎	第3問	(1)	割合と集合	C ◎
	(2)	逆算	A	◎		(2)		A ◎
	(3)	キセル算	C	○	第4問	(1)		B
	(4)	逆算	A	◎		(2)	図形と規則	B
	(5)	単位換算	A	◎		(3)		B
第2問	(1)	損益	B	◎	第5問	(4)		C
	(2)	場合の数	AA	◎		(1)	点の移動とグラフ	B ○
	(3)	角度	AA	◎		(2)		B ○
	(4)	平均	A		(3)		C	
	(5)	面積	B	◎				

※難易度⇒AA:教科書レベル A:基本 B:標準 c:応用 D:難問

※重要度⇒◎:頻出重要問題 ○:重要問題

◇2024年度入試の傾向

今年度の算数は全体的に難化しましたため、算数が得意な受験生でも高得点は難しかったようです。第1問は計算問題が5問出題されましたが、四則計算が1問のみで、逆算や体積の単位換算など容易には得点できない問題が4問出題されました。(3)キセル算はほとんどの受験生ができていませんでした。第2問(4)は平均の問われ方が特殊でしたが、思った以上に受験生は理解していました。(5)は三角定規に気づけなかったようです。

第3問は集合と割合の問題ですが、(1)で逆比を利用します。(2)は簡単ですが、(1)の正解が前提です。逆比を苦手とする受験生は多いので、第3問で大きく差がついたものと思われます。過去にも類題が出題されており、FR合格するためには必ず解けなければいけない問題です。

第4問は図形と規則の問題です。小問(1)～小問(3)が誘導になっており、ここで法則に気付けば小問(4)を解答することができます。規則自体は決して難しくはありませんが、多くの受験生が問題文の内容を理解することができなかったようです。国語の実力が算数に反映する好例です。

第5問は点の移動とグラフの問題です。グラフを読み取って二点の速さを求める必要があります。過去問にあまり出題されていないパターンなのですが、予想以上に受験生はできていました。小問(3)のグラフを書かせる問題は捨て問です。

目標点は、メインストリーム40点です。計算小問で6問以上、第5問(1)(2)で合格ラインに届きます。フロントランナーの目標点は60点です。計算小問で8問以上、第3問、第5問(1)(2)が必須です。できれば第4問(1)までは正解させたいところです。算数がこれだけ難化すると算数では差がつきにくく結果として国語と理科で合否が決まった感があります。三科目バランスよく実力をつけることが重要だと再認識させられました。

◇2025年度入試対策

甲南中学校の算数は、計算問題が5問、小問題が5問出題されます。いずれも基本的な問題で、しかも配点が高いので、計算・小問を完答することが重要となります。甲南の計算問題は、四則計算に加えて逆算、単位換算、計算の工夫等が頻出です。複雑な問題もよく出題されるので過去問などを使って何度も練習する必要があります。小問題は各分野からまんべんなく出題されます。近年はテクニックが必要な問題が出題されることがあり、やや難化傾向にあります。基本的な受験用の問題集で基本をまんべんなく押さえる必要があります。

まず、「速さ」の問題が毎年出題されることです。「速さ」の問題には様々なバリエーションがあります。速さの三公式に始まり、旅人算・通過算・流水算といった典型的な文章題から、速さとグラフ、点の移動、速さと比等があります。甲南中学校の入試ではこれら分野から毎年のように出題されています。甲南志望者は「速さ」を重点的に学習し、これをマスターする必要があります。

次に、甲南中学校の入試には、「割合と比」が頻出です。「割合と比」も「速さ」同様、割合の三公式に始まり、売買損益・食塩水・相当算・仕事算等多くのバリエーションがあります。特に、「逆比」が頻出です。過去問では、「速さと時間」「立体の底面積と高さ」「集合の重なり」などで逆比が出題されています。まずはこれらの出題パターンを押さえて、その上でその他の逆比パターンをマスターしてださい。

さらに、近年は、「立体図形と水」が頻出です。これも様々な出題パターンがあります。まずは古い過去問にさかのぼって出題パターンを押さえた後、未出題のパターンをマスターする必要があります。

その他の頻出単元は、「図形の計量(角度・面積・体積)」、「規則性」、「場合の数」、「約束記号・推理」などです。このように、甲南中学校の算数には一定の傾向があるので、甲南中学志望者は算数全分野の基本事項を広く浅く習得した後、甲南頻出分野を重点的に学習することで、甲南中学合格に向けて合理的に受験勉強をすすめることができます。甲南対策では過去問が最重要となります。過去問を解くときは I 期午前と II 期をメインに必ず50分計って解いてください。特に計算と小問は全問正解を目標に繰り返し解いてください。過去問を解くときは答案用紙には式や考え方は必ず書いてください。思っている以上に途中式に点が振り分けられています。

# 甲南中学校入試 傾向と対策(国語)

◇2024年度 I 期午前 a 入試 出題分析

国語												
問題番号	単元	難易度	重要度	問題番号	単元	難易度	重要度	問題番号	単元	難易度	重要度	
問題一	問一	漢字	AA	◎	問題三	ことわざ	AA	◎	問題四	①	AA	◎
	問二	読解 記述	A	◎						②	AA	◎
	問三	読解 抜き出し	A	◎						③	AA	◎
	問四	語彙	AA	◎						④	AA	◎
	問五	読解 記述	B	○	①	自動詞 他動詞	AA	◎				
	問六	読解 選択	A	○	②	AA	◎					
	問七	読解 抜き出し	B	△	③	AA	◎					
問題二	問一	漢字	AA	◎	④	形容詞の活用	A	○				
	問二	接続語	AA	◎	⑤	AA	◎					
	問三	読解 抜き出し	A									
	問四	読解 記述	A									
	問五	語彙	B									
	問六	読解 記述	C									
	問七	読解 記述	B									

※難易度⇒AA:教科書レベル A:基本 B:標準 c:応用 D:難問

※重要度⇒◎:頻出重要問題 ○:重要問題

## ◇2024年度入試の傾向

今年度の国語は全体的に簡単な問題が多かったです。そのためか、問題数が少なめになっており、漢字や記述問題の配点が高くなっている可能性が高く、小さいミスでの減点が痛手になったかもしれません。甲南中学校の国語のポイントは、「知識・語彙の問題でミスしない」「記述問題では部分点狙いでしっかり書く」この2点になってきます。

今年度は読解問題が二題あり、国語が苦手な子は時間的にも厳しかったかもしれません。それでも、漢字や接続語の問題はオーソドックスな問題で、ここで点数をキープできたはずで、語彙に関する問題でも、選択肢が設定されていたので、容易に正解できたと考えられます。そして、記述問題も「傍線部よりも前の部分で」という指定が与えられているものもあり、手を出しやすかったはずで、過去問に慣れていた受験生の方だと、問題二の問六のように三十字以内という字数制限のあるパターンの方が苦労したかもしれません。甲南中学校では、記述問題では大きな枠線だけで、字数指定がないものが多いです。そういった点では、過去問に慣れてしまうと逆に手が出なかったかもしれません。

問題三はことわざの問題となっており、こちらは「ひらがなで」答えなければならぬ問題で、これを見落として漢字を使って答えたりしてしまうとつたいないです。さらに、「〇〇」の入ったことわざ」というヒントもあるので、正解しやすかったはずで、逆に、ここで不正解になり点数を落とすしてしまうと他の受験生に大きく差をつけられてしまう可能性が高くなります。

問題四も基本は問題三と同様ですが(4)の「高い」を「高み」に活用する問題は多くの受験生が不正解だったと思われる。それでも、他の四問は正解できてほしい問題です。これらを押さえれば、周りの受験生に差をつけられることはないはずで。

## ◇2025年度入試対策

甲南中学校の知識系の対策として重要なものは「ことわざ・慣用句」「四字熟語」「対義語」です。この次に挙げられるものが「敬語」「文学史」「俳句(季語)」「類義語」です。「対義語」と「類義語」は読解問題の中で出てくるため、それだけで問一問分とはあまりありませんが、模試や参考書で頻出となっている基本的な問題がよく出ます。つまり、受験生であれば、正解できなければならぬ問題なので、これらが出たときに不正解になってしまうと、差をつけられてしまう問題です。

知識問題以外で対策を欠かせないのは「作文」です。近年では、Ⅲ期でも書きやすいテーマが出るようになってきました。作文は配点が十前後はあると思われるので、ここを白紙にしてしまうと、合格から大きく遠のいてしまいます。逆に、しっかり対策をしておけば、高得点、満点が狙えます。求められるのは、内容を簡潔にまとめる力です。学校の作文に比べると百文字前後と短いので、いかに自分の意見を分かりやすく伝えられる文章が書けるかが重要です。これは入試当日までにしっかりと対策を取る必要があります。

読解問題においては「2024年度の入試傾向」にも記載した通り、漢字や接続語をいかに落とさないかがポイントになってきます。漢字の問題に関しては、まずは小学校で習う漢字をしっかりと読み書きできるようにしておくことが必須です。これらを土台としたうえで、中学受験用の漢字の教材に進みましょう。合格者だけで考えたとき、漢字のみの正答率は満点か一問しかまちがえていないぐらいのレベルではないかと考えられます。甲南中学校の記述問題は字数指定のあるものは少なく(十文字未満の抜き出し問題は除きます)、大きな枠のみ与えられます。満点を取れるに越したことはありませんが、自分が答えだと思った箇所は字数を気にせず書いて、解答欄を埋めましょう。部分点狙いで構いません。その積み重ねが合格につながります。そのためにも、日ごろから記述問題に根気強く取り組みましょう。字数を気にせずに取り組んでも、甲南対策としては有効だと考えています。

今年度の問題では見受けられませんが、近年、「ひらめき」が求められる問題が増えています。上下左右に四つの漢字があり、共通する字を入れて熟語を作り問題、濁点や半濁点を加えて意味が変わる擬態語の問題などです。これらに関しては、平日頃からたくさん言葉に触れ、知らない言葉の意味を調べて積み重ねてきた「語彙力」が求められます。また、過去問で見たことのないパターンでの出題も十分にあり得ます。なので、知識問題や頭の体操と言われる問題に積極的に取り組み、自分の中での経験値を高めて、どのようなタイプの問題でも焦ることなく取り組めるようになりましょう。ときには「後回しにする」や、自分が分からないのだから、他の子も分からないだろうという「開き直り」も必要かもしれません。

# 甲南中学校入試 傾向と対策(理科)

◇2024年度 I 期午前 a 入試 出題分析

理科									
問題番号	単元	難易度	重要度	問題番号	単元	難易度	重要度		
第1問	(1)	A	◎	第3問	(1)	A	◎		
	(2)	A	◎		(2)	A	◎		
	(3)	A	◎		(3)	流れる水のはたらき	B	○	
	(4)①	A	◎		(4)	B	○		
	② 生き物の育ち方	B	○		(5)	C			
	(5)①	B	○	第4問	(1)	B	○		
	②	A	◎		(2)	B	○		
	(6)①	B	○		(3)	回路	A	◎	
②	B	○	(4)		B	○			
			(5)		B	○			
第2問	(1)	B	○						
	(2)①	B	○						
	② ものの溶け方	B	○						
	(3)	B	○						

※難易度⇒AA:教科書レベル A:基本 B:標準 c:応用 D:難問

※重要度⇒◎:頻出重要問題 ○:重要問題

## ◇2024年度入試の傾向

今年度の理科は、前年度と比較して、やや易くなりました。また、記述問題が 1 問のみで、ほとんどが記号選択問題だったため、受験生は高得点が狙いやすかったようです。

第1問は生き物の育ち方が出題されました。ヘチマ、メダカ、ヒトの成長過程について、基礎知識を問う設問ばかりでした。(5)①と(6)①は並び替え形式で、少し解きにくかった受験生はいたかもしれませんが、参考書等には書かれている内容のため、しっかりと勉強をしていた受験生は解答しやすかったのではないかと思います。

第2問はものの溶け方についての問題でした。見慣れた折れ線グラフではなく棒グラフのため、この単元に苦手意識のある受験生は解きにくく感じたかもしれません。しかしながら、計算問題が一切なかったため、解答自体はしやすかったのではないのでしょうか。

第3問は流れる水のはたらきからの出題でした。水制とワンドという聞いたことのない言葉が出てきており、甲南中学らしい、基礎知識をしっかりと活用できるかを問う問題になっていました。(5)は解答できなくても大丈夫です。

第4問は回路について、豆電球と発光ダイオード(LED)を使った問題が出題されました。乾電池 1 個ではLEDが発光しないことをグラフから読み取る必要があったため、少し解きにくかったのではないかと思います。ただし、基礎知識のみで解答できる設問もあり、大問としては、良問のように思います。

目標点は、メインストリームで 65 点、フロントランナーで 75 点です。塾で配布されているテキストや参考書、問題集でしっかりと基礎知識を身につけることで、合格点にたどり着けることがよく分かる出題でした。

## ◇2025年度入試対策

甲南中学の理科は、大問数が 4 問か 5 問、生物、地学、化学、物理分野から各 1 問は必ず出題されます。基礎知識を問う問題が多いため、日ごろから基礎知識に抜けがないかの確認をしましょう。2024年度は作図問題は出題されませんでした。記述問題や作図問題は必ず出題されると考えておきましょう。各分野において、「なぜそうなるのか」また「なぜそうしてはいけないのか」等を常に考えながら勉強をしておかないと、記述問題にも作図問題にも対応することができません。記述問題や作図問題を集めた問題集を繰り返し解くことや問題の解説を読むことで知識を深め、記述の仕方や作図の仕方を練習していきましょう。

# 甲南女子中学校入試 傾向と対策(算数)

◇2024年度A1次入試出題分析

算数															
問題番号	単元	難易度	重要度	問題番号	単元	難易度	重要度	問題番号	単元	難易度	重要度				
第1問	(1)	四則計算	AA	◎	第2問	(1)	損益	A	◎	第3問	(1)	消去算	A	◎	
	(2)	四則計算	AA	◎		(2)	損益	A	◎		(2)	消去算	A	◎	
	(3)	逆算	A	◎	第4問	(1)	倍数算	B	◎	第5問	(1)	数の性質	A	○	
	(4)	比	A	◎		(2)	倍数算	B	◎		(2)	数の性質	C	○	
	(5)	割合	AA	◎	第6問	(1)	立体図形と水	C	◎	第6問	(1)	立体図形と水	C	◎	
	(6)	食塩水	A	◎		(2)	立体図形と水	C	◎		(2)	立体図形と水	C	◎	
	(7)	過不足算	A	◎	(3)	立体図形と水	C	◎	(3)		立体図形と水	C	◎		
	(8)	分数の大小	AA	◎											
	(9)	円の面積	AA	◎											
	(10)	角度	A	◎											

※難易度⇒AA:教科書レベル A:基本 B:標準 c:応用 D:難問

※重要度⇒◎:頻出重要問題 ○:重要問題

◇2024年度入試の傾向

2024年度は全体的に基本を中心に出题されています。これまでは計算小問が基本、大問で標準から応用問題が出题されていましたが、大問の応用問題が減っています。

第1問は計算問題、小問題が出题されています。どの問題もの基本問題のみです。難しい問題は皆無なのでミスをしなないようにしてください。

第2問は損益算の基本問題です。損益の用語である「増し」「引き」を理解できているかがポイントです。受験生にとっては常識レベルの内容です。絶対に正解させてください。

第3問は消去算です。国語→算数→理科→社会の順に引き算をして求めるだけの問題です。特に悩むところもありません。これも必ず正解させてください。

第4問は倍数算です。やや複雑なので表などを利用して整理するといいいでしょう。甲南女子でよく出るパターンなので過去問をマスターしていれば難なく解けたでしょう。

第5問は規則性と数の性質の融合です。小問(1)は数えても解答できるのでそんなに難しくありません。小問(2)はやや難しいと思います。整数をかけた時に現れる0の個数を求める問題は典型パターンですので、理屈を押さえればこの問題も解けたと思います。

第6問は水にグラフを絡めた問題です。グラフの読み取りができれば簡単に答えがでますが、最後の問題でもあり時間的制約の中で完答するのは難しいとおもいます。

合格ラインはSアド80点、スタンダード60点です。基本問題を確実に解ければ6割以上はとれるので、ミスしないことが重要です。

◇2025年度入試対策

甲南女子中学校の算数では「割合」「速さ」「立体図形と水」「グラフの読み取り」「規則性」などが頻出単元となっています。とりわけ、「割合」「速さ」「立体図形と水」は毎年のように出題されるので、苦手な人は必ず克服しておかなければなりません。また、これまでは「立体図形と水」以外の「図形」はあまり出題されませんでした。近年は「平面図形」が毎年のように出題されるようになってきました。

以上から、甲南女子中学校の算数を攻略するには、まず、①計算を固めて、算数全分野を広く・浅く習得したうえで、②割合」「速さ」「立体図形と水」などの甲南女子頻出分野を徹底的にマスターすることが重要です。そのうえで甲南女子の過去問を解くことが重要です。その際、計算・小問はA1のm問題だけではなく、A2やB入試の問題も解くようにしてください。まずは、計算・小問で8割以上解けるようにしてください。その上で、A1の大問に取り組んでください。A2やBを解くよりも、A1の問題をなるべく古い年度までさかのぼって解いてください。甲南女子は過去問から類題が出题されるので、反復して解いてください。過去問は問題に偏りがあり最新の傾向に対応できないので、受験用の教材で基礎単元を押さえることも忘れないようにしてください。

# 甲南女子中学校入試 傾向と対策(国語)

◇2024年度 I 期午前 a 入試 出題分析

国語									
問題番号	単元	難易度	重要度	問題番号	単元	難易度	重要度		
問題一	問一	漢字	AA	◎	問題二	問一	漢字	AA	◎
	問二(1)	接続語	AA	◎		問二(1)	副詞	AA	◎
	(2)	対義語	AA	◎		(2)	言葉の意味	A	○
	問三	読解 記述	B	◎		問三	修飾語	AA	◎
	問四	読解 抜き出し	A	◎		問四	読解 選択	AA	◎
	問五	読解 記述	A	○		問五	読解 選択	A	◎
	問六	読解 選択	B	○		問六(1)	読解 記述	A	◎
	問七	読解 記述	B	○		(2)	読解 記述	B	△
問八	読解 選択	B	○	問七(1)	表現技法	AA	◎		
				(2)	読解 選択	A	◎		
				問八	読解 記述	A	○		

※難易度⇒AA:教科書レベル A:基本 B:標準 c:応用 D:難問

※重要度⇒◎:頻出重要問題 ○:重要問題

## ◇2024年度入試の傾向

今年度の甲南女子の問題は例年に比べて、点数が取りやすかったと思われます。例年に比べると漢字や接続語、語彙などの問題も増えており、記述問題の字数指定も少なめのものがほとんどでした。その分、例年よりも問題数も多く、時間との戦いになってしまった受験生がいたかもしれません。その上で、国語で高得点を取るためにポイントとなったのは三点あります。

一点目は例年よりも多かった、漢字や語彙、接続語の問題です。例年、このような問題は十二問前後でしたが、今年度は例年の倍近くの二十二問もありました。特に、両方の大問の問二、接続詞と副詞の空所補充問題が合計で九問と例年よりもはるかに多く、また、満点を取るのもそれほど難しくはありませんでした。この二問で点数を落としてしまうと痛手になってしまうと思われます。

二点目は第一題の説明文の問三と問七の字数指定のない記述問題でどこまで点を取れたかです。甲南女子では字数指定のない記述問題は珍しく、こういった問題の出題者の意図としては「部分点を取ってほしい」というところにあります。満点の解答にはいくつかポイントがあり、そのポイントの一つでも押さえれば点数がもらえます。このような問題では、臆することなく自分が解答だと思った点を書いていけば点数につながる可能性が高いです。けれども、こういった問題で手が止まって空欄にしてしまうと、周りの受験生に差をつけられてしまいます。これらの二題でどのような点数の取り方をしたかが、得点に大きく反映された可能性が高いです。

三点目は第二題の物語文の問題で高得点がどうかです。記述問題が例年よりも字数が短く、設問に書かれている答えの空所を埋めるかたちになっていたため、解答にたどり着くためのヒントが多くありました。したがって、今年度の物語文は点数を伸ばしやすかったはずですが、反対に記述問題で点を取り切れなかったり、時間が足りなかったりした受験生は大きく点数を落としているはずですが。

以上の三点が、今年度の甲南女子中学校の国語の攻略のポイントでした。最終的には「漢字や語彙で点数を落とさない」「記述問題は空欄にしない」という基本的な二点をいかに忠実に実行できたかということになります。これは甲南女子に限った話ではありませんが、例年の問題と比べると、この基本の大切さを実感する問題が作られていました。

## ◇2025年度入試対策

甲南女子の国語は、大問二題で、説明文と物語文で構成されるという、シンプルでオーソドックスな問題になっています。漢字は年度によって出題数が異なりますが、近年の傾向では大問それぞれで3問～5問出題されます。さらに、言葉の意味を問うものがよく出題され、慣用句やことわざの問題も出されます。今年度は出題されませんが、文挿入(脱文補充)問題です。このパターンは甲南女子以外の学校の問題も合わせて十分に対策しておくべきです。記述問題に関しては、字数を指定されることが多いので、単純に答えの箇所を探すだけでなく、その箇所を字数以内にまとめる練習も必要です。

甲南女子の国語の対策として、ある程度長い文章に慣れておく必要があります。甲南女子で出題される文章よりも長く、難しい問題に取り組んでおくのが理想的です。記述問題に関しても、難易度自体はそれほど高くはありません。普段、塾で扱った教材のレベルの記述問題に慣れておけば問題ありません。もちろん、条件を加えて問うものには注意してください。問われていることと関係ない内容になってしまえば部分点も取れない可能性があります。そして、長文問題で安定して半分以上正解できるようになれば、時間も意識して取り組むようになります。時間も足りず、記述問題もかけないというのであれば、先に解答を作成する方を意識しましょう。時間は過去問の時間にさえ慣れてしまえばいいので、慣れないうちは、時間はあまり意識せず、自分なりに解答の箇所を探すこと、なぜそこにたどり着いたかのプロセスを重視しましょう。

甲南女子の国語の平均点は非常に高いです。学校の HP で公開されている合格者平均点が、スタンダードで65点～70点、Sアドでは75点～80点となっています。つまり、それだけの点数が取れなければ、周囲に差をつけられてしまうということです。7割を目指すとなると、漢字やことわざなどの知識系問題はほぼ満点が求められ、記述問題の空欄などはもっての外になります。また、国語が得意で、算数や理科の点数をカバーしようと考えても、最低でも8割は欲しいところです。国語を得点源にしている受験生、国語が得意な受験生が多く集まっていますので、国語がまず7割に届くかどうか、甲南女子合格への第一歩になります。

# 甲南女子中学校入試 傾向と対策(理科)

◇2024年度 I 期午前 a 入試 出題分析

理科									
問題番号	単元	難易度	重要度	問題番号	単元	難易度	重要度		
第1問	(1)		A	第3問	(1)①	A	◎		
	(2)	金属と水溶液の反応	B		○	(1)②	B	○	
	(3)		C		◎	(1)③	A	◎	
	(4)		A		◎	(1)④	B	○	
	(5)	中和	B		○	(2)	C		
	(6)①		B		○	(3)	B	○	
	(6)②		C			(1)	A	◎	
	(7)	環境問題	A		◎	(2)	B	○	
第2問	(1)		A	◎	(3)	B	○		
	(2)		B	○	(4)	B	○		
	(3)①		A	◎	第4問	(5)	生物と自然環境	B	○
	(3)②		A	◎		(6)	A	◎	
	(4)	気象の観測と天気の変化	B	○		(7)	C		
	(5)		B	○		(8)	B	○	
	(6)		B	○		(9)	A	◎	
	(7)		B	○					
(8)		B	○						

※難易度⇒AA:教科書レベル A:基本 B:標準 c:応用 D:難問

※重要度⇒◎:頻出重要問題 ○:重要問題

◇2024年度入試の傾向

ここ数年の傾向は基本問題が大部分を占めていましたが、今年は基本問題よりも標準的な問題が少し多めに  
出題されておりました。

第1問は化学分野より金属と水溶液の反応や中和などの受験生が少し苦手とする単元や環境問題からの出  
題でした。(3)のグラフを書く設問はSアドを目指さない限りは捨て問です。

第2問は気象の観測と天気の変化が出題されました。基本問題よりも標準問題が少し多めに  
出題されており、問題集をしっかりとこなしていれば解ける程度の難易度で調整されては  
いましたが、(4)が長文を読ませつつ穴埋めを単語でさせる設問となっており、  
覚えていない場合は考えずに飛ばす、という選択をする必要がありました。

第3問は物理分野より豆電球、乾電池とスイッチを使った回路についての問題でした。  
問題数は他の大問と比べて少ないですが、条件毎にどのような回路になるかの確認が必要となるため、  
難易度の割に難しいと受験生は感じたかもしれません。

第4問は生物と自然環境よりの出題でした。(7)の計算問題は手を出さない方がいい設問です。  
(8)は自分の意見を述べる設問で、的外れなことを書かない限りは得点できるであろう設問です。

目標点は、スタンダードは25点、Sアド/バントなら35点です。全体的に問題数が多く、  
随所に計算や条件整理をする必要のある設問があるため、少しでも手を止めて考えてしまうと  
時間が足りなくなってしまう可能性があります。基礎知識をしっかりと身につけた上で、  
問題演習をよくこなしておく必要があります。

◇2025年度入試対策

甲南女子中学校の理科の試験時間は40分です。採点は100点満点で行われ、50点満点  
に換算されます。単元は、物理、化学、生物、地学より、満遍なく出題されます。  
大問数は、ここ数年は4題で固定されており、小問数が多い傾向があります。

記号選択問題の割合が少なく、用語を答えさせる問題や、理由の説明や計算の途中式を書かせる  
記述問題の割合が多いのが甲南女子中学校の理科の特徴でしたが、ここ数年は記号問題が増え、  
記述形式の問題が減ってきています。記述問題の解答欄はあまり大きくはなく、  
1~2行程度で答えなければならないため、各単元の「キーワード」や「ポイント」を  
しっかりと把握しておく必要があります。また、説明を求められる現象などは基本的な  
ものが多いので、自分の言葉で説明できるよう、普段から練習しておきましょう。  
計算問題も基本的な問題が多いため、問題文をよく読み、どのような状況であるのかを把握する  
訓練をしておくといよいでしょう。

物理分野、化学分野においては、表やグラフの読み取りが必要な問題がよく出題されます。  
そこまで複雑なものではない上、基本的な読み方を理解できていれば十分対応が可能です。  
苦手意識を持たず、普段の勉強で表やグラフの読み取りに関する基本的な問題を解くように  
しましょう。

表やグラフも含めた作図問題もよく出題されます。市販されている理科の作図問題集などを活用し、  
よく対策しておきましょう。そして、ここ数年はあまり出題されていませんが、時事問題が  
出題されることも多いです。その年の理科に関連するニュースはチェックしておく必要があります。